



**Preview**

---

**108**

---

誠信プレビュー

---

目次		
自閉の利用	石川 元	3
Preview 読者の皆様へ		7
Review 「感覚・知覚」に関する本		15

石川 元

# 自閉の利用

——アスペルガーの治療教育とブリスの解決志向アプローチ

---

## 1. 国際診断分類からアスペルガーに因んだ名称が消える

DSM-V (2013) から、妥当性の低い概念だという理由で、アスペルガー障害という名称が消える公算が大きい。影響はその翌年の ICD-11 にも及ぶだろう。そもそも、アスペルガー症候群という名称はヨーロッパ大陸では、ハンス・アスペルガーの自閉性精神病質と称するパーソナリティ障害と同義語だった。アスペルガーの死後、1981年に、重度自閉症児の母親でもあった、イギリスの疫学研究者ローナ・グラディス・ウイングが、この本来の名称を、自閉性精神病質と共通した病態を有するさらに重症な自験例により同じラベル（アスペルガー症候群）で上書きしてしまった。パーソナリティ障害という括りと（アスペルガー特有の）治療教育と創造性とから完全に切り離れた形である。続いてセイフティネットをめざすウイングのように類似点を重視した分類であるランパーの立場からではなく、相違点を強調するスプリッターの立場から ICD-10 (1992) に操作診断名として取り込まれ、DSM-IV (1994) 更には DSM-IV-TR (2000) のアスペルガー障害へと伝承された。いずれも自閉性精神病質とは異なり、当然一貫性もない。偽アス

ペルガー症候群であるがゆえに、その名称の消えゆく命運は当然の報いなのかもしれない。

最近になって（筆者を含め）「自閉症」という名称のなおや名祖が英米ユダヤ系自閉症史の中でいわれているようなレオ・カナーではなく、それを5年も遡るハンス・アスペルガー（1938）であることを指摘する報告が世界で相次いだ。（国際診断分類から消えるのを契機に）アスペルガー症候群をもっとアスペルガーに因んだ内容にすべきだという議論が湧き起こってくることも期待できる。

## 2. ハンス・アスペルガー本来のアスペルガー症候群

DSM でいえば、アスペルガー障害を第2軸（パーソナリティ障害）に配置し、第1軸（たとえば気分障害の一型）と併記するという意見は以前から臨床家の間でよく聞かれた。筆者の場合は、広汎性発達障害でも新自閉症スペクトラム障害でも、そのうちの「対話による精神療法の対象となるグループ」を新アスペルガー症候群としたらどうかと考えている。アスペルガーの自閉性精神病質は治療教育と渾然一体のものであり、その治療教育は従来ウィーン治療教育にハンブルガーの暗示・逆説精神療法や健康医学（養生）を色濃く取り込んだものだからである。

こう考えるようになった契機は、今回誠信書房で上梓される、E.V. ブリス & G. エドモンズ著『アスペルガー症候群への解決志向アプローチ——利用者の自己決定を援助する』の翻訳だった。ここでの治療技法は、当事者

---

\* 旧自閉症スペクトラム障害が、ウイングの意向（セイフティネット）と裏腹に単なる広汎性発達障害の代用としてアメリカでも広く流用されている現状に乗じてアメリカ精神医学会は DSM-V にスプリッター仕様の操作診断として採用。

の自己決定を援助するという現代風の装いはあるものの、クライアントを称賛しながら、その自閉を利用、つまり治療的二重拘束によって抵抗を除去してセラピストがして欲しい課題を遂行させる構造が、アスペルガーの治療教育に酷似している。

### 3. アスペルガーの治療教育はウィーンの伝統と健康医学との折衷

ウィーン大学病院小児科・治療教育部門は、アレルギー概念の創始者として有名な教授クレメント・フォン・ピルケが、虐待や反社会性のみられる青少年の矯正を小児科医として模索していたアーウィン・ラツアーを長に起用し、少人数モデル施設として創設された。ラツアーが橋渡しとなり、ピルケはウィーンで早くから治療教育を実践していたヘラーとも連携。この3人のユダヤ人は、ともにフロイトやアドラーの精神分析を取り入れた治療教育をめざした。医学生だったアスペルガーは、早くから小児科教室に出入りし、ヘラー（まもなく服毒自殺）とも親交を持った。1929年、教授ピルケは夫婦で心中。子どもの神経症で有名なフランツ・ハンプルガー（1874-1954）が後任となった。

就任演説でハンプルガーはヒトラー総督による健康医学推進を奨励。医学は国家社会主義を土台にすべきで、両者とも基盤にあるのは生物学志向だから教官の意識変革は簡単にできると強調。器質性脳疾患にも暗示が影響するとして、養生の重視がその持論だった。優生学に基づく結婚や母親が家庭に居る重要性、小児科学は受胎前までをもその領域とするとのドグマはアスペルガーに多大なる影響を与えた。1931年医学部を卒業して小児科

に入局したアスペルガーは、ハンブルガーの最初の弟子。全体の7割を占めたユダヤ系教官が次々と追放される中、翌1932年には、次第に隠遁傾向にあったラツアーが突然逝去。(亡命前ベルリンでは心電図専門の内科医だったユダヤ人カナーとは好対照だが)ライプチヒ大学シュレーダー教授などのもとで精神病理学を研修していたアーリア人アスペルガーは、若輩ながら1935年、ラツアー後任として治療教育部門の運営をハンブルガーから一任された。ここにピルケ、ラツアー、ヘラー伝統のウィーン治療教育とハンブルガーによる暗示・逆説療法を統合したアスペルガーの治療教育が始まった。多くの障害児が安楽死の対象となる中(アスペルガーと同期にハンブルガーの元に弟子入りし治療教育部門にも在籍した医師アーウィン・イケリウスは40年代には子どもの安楽死施設アム・シュパイゲルグランドを指揮)、将来は労働力ともなり国家に貢献する潜在能力をも期待された自閉性精神病質の子どもは、いまやウィーン唯一の治療教育施設になってしまったアスペルガーのもとで、精神療法を受けた。後に自身も隠蔽した1938年のアスペルガーの論文は、「精神変則児(自閉性精神病質)は〈生きるに値しない命〉ではない」という啓発だったのである。

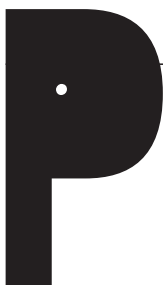
彼の治療教育と解決志向アプローチ双方の詳細、その共通点などは、前掲書のあとがきに詳しく記しておいた。読者には、ユダヤ人嫌いでも殺戮好きでもない木訥で穏和なアスペルガーが当時置かれていた二重拘束状況や、カナーを嚆矢だとする、ハリウッド映画さながらのまことしやかな自閉症史の虚偽も、この機会に是非知って欲しい。

(いしかわ げん / 香川大学医学部附属病院子どもと家族・こころの診療部教授)

# 読者の皆様へ

## 誠信書房出版案内

---



---

小社の出版物は全国の主要書店の店頭にてお求めいただけます。  
店頭がない場合には注文にてお取り寄せください。

直接送付をご希望の場合は、お名前ご住所（お届け先）、電話番号、ご注文の書名、冊数を明示のうえ、電話、FAX、e-mail (sei@seishinshobo.co.jp)にてお申し込みください。代金引換郵便にてお送りいたします。送料は1回につき一律200円です。お受け取りの際に代金（価格合計+消費税+送料）を郵便局係員にお支払いください。

公費でのご購入などで、代金引換郵便が不都合な場合には、ご一報ください。

小社の新刊書および既刊書は、インターネットのホームページでもご案内しておりますので、ご利用ください。

本誌をご希望の方は、直接小社にお申し付けください。定期的にお送り（無料）いたします。

---

〒112-0012 東京都文京区大塚3-20-6

電話 03-3946-5666 Fax 03-3945-8880

<http://www.seishinshobo.co.jp>

---

2010年6月5日刊行

# 知覚を測る

実験データで語る視覚心理学



大山正 著

本書は、主観的側面が強い感覚・知覚を、いかにして客観的に捉え、さらに量的に表現するかの問題を取扱う。著者が協力者とともに実施した多くの実験研究を例に、具体的に解説し論じていく。日本を代表する知覚研究者による半世紀を超える研究の総まとめ。実験データに基づいた視覚心理学の展望が得られる。日本心理学会第72回大会での国際賞特別賞受賞記念講演に基づいている。

---

## 第1章 知覚の測定法

意識としての知覚／意識と行動／刺激と反応／他

## 第2章 色の知覚の測定

光と色／明るさと色の順応／色の象徴性／他

## 第3章 形の知覚の測定

図と地／透明視／錯視／形と感情／知覚的群化／他

## 第4章 空間知覚の測定

遠近感の手がかりと距離知覚／大きさの恒常性／他

## 第5章 運動知覚の測定

見えの速さ／誘導運動／運動が与える印象／他

## 第6章 知覚－認知過程の測定

時間を越えた群化／注意の範囲／他

## 第7章 結語

測定法の適用／理論的示唆

---

おおよま ただす：元 東京大学教授・日本大学教授

A5判 190頁 / 定価 2730円 (本体 2600円 + 税)

ISBN978-4-414-30177-9

---



2010年4月20日刊行

# 展望 現代の社会心理学 2 コミュニケーションと 対人関係



相川充・高井次郎 編著

日本社会心理学会50周年記念シリーズの第一弾。人間のコミュニケーションに的を絞って解説するシリーズ第2巻。第I部では、電子メディアやマス・メディア、文化に関する要素をとりあげ、「人に伝える」ことについて解説。第II部では、対人関係、ジェンダー、交渉と説得など、「人との関わり」を解説。最後の第III部で、家庭・学校・職場における人間関係など、「関係のなかで生きる」ことについて論じる。

---

## 第I部 人に伝える

- 第1章 対人場面のコミュニケーション
- 第2章 電子メディアのコミュニケーション
- 第3章 マス・メディアのコミュニケーション
- 第4章 文化とコミュニケーション
- 第5章 市民と専門家のコミュニケーション

## 第II部 人と関わる

- 第6章 対人関係の発展と崩壊
- 第7章 対人関係のジェンダー
- 第8章 対人交渉と説得
- 第9章 対人葛藤と攻撃
- 第10章 対人関係のストレス
- 第11章 ソーシャル・サポートとソーシャル・ネットワーク

## 第III部 関係のなかで生きる

- 第12章 家庭の人間関係
- 第13章 学校の人間関係
- 第14章 職場の人間関係

---

あいかわ あつし：東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科教授

たかい じろう：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授

---

A5判 334頁 / 定価 4200円（本体 4000円 + 税）

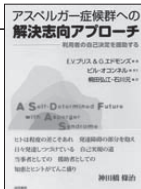
ISBN978-4-414-30174-8

---

2010年7月15日刊行

# アスペルガー症候群への 解決志向アプローチ

利用者の自己決定を援助する



E.V. ブリス & G. エドモンズ 著 桐田弘江・石川元 訳

“変わり種だが見える”セラピストとその利用者（アスペルガー症候群当事者）が共同で執筆した極めてユニークな書である。問題点ではなく解決することに焦点を絞る解決志向アプローチで、両者に負担を強いる従来のやり方を180度転換する。自閉を抱えた人々にも有効な精神療法であり、「治療教育」（アスペルガー）の利用者最優先型ともいえる最新の思想にもとづく。

## 第1章 はじめに

いったいこの本は何について書かれているのでしょうか／他

## 第2章 解決志向アプローチ——理念と技法

頭の中を空っぽにして、好奇心を持つ／他

## 第3章 自閉の特性と解決志向セラピー

セラピーとコミュニケーション／他

## 第4章 すべてを繋げて考える

事業所指向の支援／他

## 第5章 日常生活での解決志向アプローチ

対人関係／専門家としての限界／他

## 第6章 七人の事例と親睦会

保護観察中のサム／警察官パディ／在宅ケアサービスのマネージャー、マージ／他

## 第7章 実践のための資料

面接要約シート／スケーリングの記録／評価シート／解決志向シート

E. V. Bliss：英国で20年にわたり自閉症を抱える人びとへの療育活動を行う解決志向アプローチの心理療法家

G. Edmonds：アスペルガー症候群当事者、現在英国内で自閉症に関する講演や訓練・支援を行う

きりた ひろえ：愛媛大学総合健康センター相談員、臨床心理士

いしかわ げん：精神科医、香川大学医学部附属病院子どもと家族・こころの診療部教授

A5判 256頁 / 定価 2940円（本体 2800円＋税）

ISBN978-4-414-30624-8

2010年4月15日刊行

# 非行・子ども・家族との 心理臨床

援助的な臨床実践を目指して



藤田博康 著

この世の中には不幸や不公平が厳然と存在する。そして子どもたちが犯す「悪」にも、それら不幸や不平等が分かちがたく絡み合っている。本書は、非行を犯した子どもたちやその家族との繊細でダイナミックな臨床事例を通して、人間心理の複雑な機微や深淵を可能な限り描写し、悪とは、幸不幸とは、救いとは、心理療法とは、といった心理臨床の本質を追求する。

- 
- 第1章 非行臨床とはいかなる営みか——「悪」の論考を通じて  
非行臨床の前提／非行臨床とはいかなる営みか／他
- 第2章 非行臨床研究の歴史的展望  
——研究者の内なる「悪」を踏まえて  
認知行動療法と共感的心理療法／他
- 第3章 心理臨床の原動力となるものとそれを援助的にせしめる要因——ある非行事例を通じて  
問題と目的／事例／考察／他
- 第4章 非行臨床実践における統合的援助モデル  
——非行少年の悩み方と非行臨床の特殊性を踏まえて  
問題と目的／仮説的援助モデルと援助論／他
- 第5章 非行臨床における家族療法的接近  
文脈療法理論／臨床実践事例／他
- 第6章 総合的考察および今後の発展に向けての試論  
援助的な心理臨床実践とはいかなるものか／他

---

ふじた ひろやす：帝塚山学院大学大学院人間科学研究科教授、臨床心理士

A5判 222頁 / 定価 2730円（本体 2600円 + 税）

ISBN978-4-414-40058-8

---

2010年7月15日刊行

# 芸術と心理療法

創造と実演から表現アートセラピーへ



ショーン・マクニフ 著 小野京子 訳

多様なアート表現を統合的に用いる「表現アートセラピー」という療法の真髄を伝える革新的な内容の書。視覚的なアートセラピーから始めて、すべての芸術に関心を向けて心理療法で統合的にもちいる。分析的な芸術療法と違って、表現や表現のプロセス自体を重視する創造的な芸術療法。芸術と関わるセラピストが自分自身アート表現の力と芸術の深さを体験する、あるいは体験しつづけることが重要だとしている。

## 概要

### 第1章 不滅のシャーマン

方法の継続性、力の付与、復活

### 第2章 動機づけと欲求

バランスと秩序、能力と熟達、承認、他

### 第3章 表現を妨げるもの

閉ざされた表現対開かれた表現、セラピスト、他

### 第4章 準備

### 第5章 話し言葉と書き言葉

詩を読む、自分の言語を発見する、他

### 第6章 体の動き、ダンス、身体

体の動きを観察する

### 第7章 音と音楽

環境の音と音楽、音の実演とセラピー・オペラ

### 第8章 視覚イメージ

### 第9章 ドラマ

ドラマ実演と心理療法

## 結論

Shaun McNiff: レスリー大学大学院教授

おの きょうこ: 表現アートセラピー研究所代表、臨床心理士

A5判 294頁 / 定価 3990円 (本体 3800円 + 税)

ISBN978-4-414-41438-7

2010年6月5日刊行

# 子どもの精神分析的 心理療法の基本



鶴飼奈津子 著

子どもの精神分析的心理療法の受付から終結までを、総合的に示す。タビストック・クリニックでの「子ども・青年心理療法士」の資格取得時のトレーニング内容と、その後の臨床体験を、自閉症と発達障害の子どもの事例を挙げながら詳細に伝えることにより、精神分析に対する“誤解”を解き、子どもの精神分析に対する“誤った信念”に警鐘を鳴らす。また、スーパーヴィジョンのあり方にも触れており、実践の書として示唆に富む内容となっている。

---

## 第Ⅰ部 子どもの精神分析的心理療法の基本

### 第1章 枠組み

### 第2章 相談の受付から心理療法に至るまで、そして終結までのプロセス

### 第3章 親面接の基本

## 第Ⅱ部 子どもの精神分析的心理療法の実際

### 第4章 精神分析的心理療法のためのアセスメントの実際

### 第5章 心理療法の経過中に行う振り返り面接の実際

### 第6章 集中的心理療法の実際

## 第Ⅲ部 英国における公的医療制度と子ども・青年心理療法士のトレーニング

### 第7章 子ども・青年心理療法士のトレーニング

### 第8章 スーパーヴィジョンと教育分析

## 資料編

1. 英国の国民保健制度と児童・思春期の子どもたちのための精神保健サービス
2. その他の心理学関連の専門職とそのトレーニング

---

うかい なつこ：大阪経済大学人間科学部准教授，臨床心理士

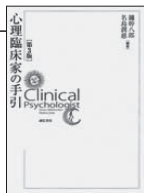
A5判 206頁 / 定価 2730円（本体 2600円 + 税）

ISBN978-4-414-40060-1

---

2010年5月25日刊行

## 心理臨床家の手引 [第3版]



鍾 幹八郎・名島潤慈 編著

好評のロングセラー『新版 心理臨床家の手引』に最新の情報を盛り込んだ全面改訂版。心理臨床家としてのアイデンティティの確立、倫理基準、心理アセスメントにおける留意点、心理療法の基本的ルールやプロセス、いろいろな援助・相談・治療機関における心理臨床の実際、社会資源の活用の仕方、さらには心理臨床に関連する法規など、心理臨床家として学んでおくべき基礎のすべてをあますことなく解説している。

- 第1章 臨床心理士の現況とアイデンティティ
- 第2章 心理臨床家の倫理
- 第3章 心理アセスメント
- 第4章 心理学的処遇
- 第5章 いろいろな援助施設における心理臨床
- 第6章 心理臨床家と精神医学的知識
- 第7章 心理面接者に尋ねられる質問にどう答えるか
- 第8章 社会資源の活用
- 補章 心理臨床活動に関する関係法規の概説

たたら みきはちろう：京都文教大学学長、臨床心理士

なじま じゅんじ：山口大学教育学部教授、臨床心理士

A5判 364頁 / 定価 3675円 (本体 3500円 + 税)

ISBN978-4-414-40059-5

2010年8月上旬刊行予定

## 新・臨床心理士になるために [平成22年版]

(財)日本臨床心理士資格認定協会 監修

臨床心理士の資格取得を目指す人のための総合ガイド。臨床心理士に求められる専門性を、専門教育と専門業務の両面から解説するとともに、過年度(平成19～21年度)資格試験問題の一部を正答と解説を加えて公開し、具体的に示した。

A5判 約250頁 / 定価 1785円 (本体 1700円 + 税)

ISBN978-4-414-40062-5

レビュー誠信書房出版案内

R

テーマ

「感覚・知覚」に関する本

1994 年刊行

## 新編 感覚・知覚心理学 ハンドブック

大山 正・今井省吾・和氣典二 編

各分野の第一線で活躍中の 100 余名の新規  
執筆陣による新編。

菊判 1784 頁 + 挿図 1000 葉

定価 52500 円 (本体 50000 円 + 税)

ISBN978-4-414-30503-6



2007 年刊行

## 新編 感覚・知覚心理学 ハンドブック Part 2

大山 正・今井省吾・和氣典二・菊地 正 編

『新編 感覚・知覚心理学ハンドブック』(1994 年刊)は、刊行後 10 年余りが経過し、その間に各領域での研究が進展するとともに、新たなトピックも現れている。今回の『Part 2』は、この間のギャップを埋めるため、近年とくに進歩の著しいテーマを重点的に取り上げ解説した。認知心理学との関係が密接な注意・記憶研究、事象知覚やバーチャル・リアリティなど日常場面に近い研究、fMRI をはじめ生理学的指標を利用した研究、さらに、応用分野として高齢者の感覚・知覚研究なども取り上げ、本編とは独立した内容も充実している。

菊判 638 頁 / 定価 18900 円 (本体 18000 円 + 税)

ISBN978-4-414-30504-3



seishin preview 108  
2010年7月30日発行

株式会社 誠信書房  
〒112-0012  
東京都文京区大塚 3-20-6  
電話 03-3946-5666  
FAX 03-3945-8880  
<http://www.seishinshobo.co.jp/>

Paper: グラフイーエコ